

平成22年度 事務事業評価シート（平成21年度実績分）

事務事業名	図書出版事業費		部課コード	2010	予算事業科目	011007030132	事	単	区分	継続	
所管部署	担当部局	教育委員会	部局長名(2次評価者)	松原和廣		個別事務	全部	011007030132	-	1	
	担当部署	市民図書館	所属長名(1次評価者)	筒井秀一							
	電話番号	088-823-9451	E-mail	kc-201000@city.kochi.lg.jp							

1 事業の位置付け

予算科目(平成21年度)	高知市総合計画・実施計画施策体系での位置付け				
会計	01 一般会計	目標	02 日いきいきと輝き安心して暮らせる都市	政策基本方針	すべての市民が健康で文化的な生活を送れるように、生きがいを育む生涯学習・スポーツへの参加を促進するとともに、生涯にわたる一貫した心身の健康づくりに取り組みます。
款	10 教育費	政策	02 生きがい輝く生涯学習・スポーツの環境づくり		
項	07 社会教育費	施策	01 生涯学習活動の支援		
目	03 図書館費	区分	02 図書館		

2 事業の根拠

法律・政令・省令		法定受託事務
県条例・規則・要綱等		
市条例・規則・要綱等	高知市立市民図書館条例施行規則	
その他(計画、覚書等)		

3 事業の目的・内容等

対象	誰(何)を対象に	「こども小砂丘賞作品集」の出版		
意図	どのような状態にしていくのか	毎年県内小中学校の児童・生徒の応募作品の中から、入賞作文を選んでその年度の作品集として出版する。		
手段	事業実施体制等	「財団法人 小砂丘賞委員会」へ出版委託	事業開始年度	昭和50年度
			事業終了年度	
活動内容	どのような事業活動を行うのか	入賞作文を1冊の本として出版するための、原稿の整理、編集、印刷発注、校正、出版後の販売PR。		
成果指標	事業目的の成果を測る指標		指標設定の考え方	
	A	期限内の定めた数の出版(冊)	毎年の小中学校への販売時期までに、出版を間に合わせる事が重要な指標となる。	
	B	販売数(冊)	出版した冊数が売り切れることが、出来ばえ等の観点、また採算ベースからも重要な指標となる。	
	C			

4 事業の実績等

			19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(計画)	備考欄	
成果指標	A	期限内の定めた数の出版(冊)	目標 550	550	600	600		
		実績 550	550	550	600			
	B	販売数(冊)	目標 550	550	600			
		実績 550	550	550	600			
	C	目標						
		実績						
投入コスト	① 事業費	決算額 (千円)	2,312	1,000	1,000	900	19年度までは出版で1名委託雇用。20年度から「財団法人 小砂丘賞委員会」へ委託	
		財源内訳	国費 (千円)					
			県費 (千円)					
			市債 (千円)					
			その他 (千円)					
			一般財源 (千円)	2,312	1,000	1,000		900
	翌年度への繰越額 (千円)							
	② 概算人件費等	人件費等 (千円)	75	75	75	75		
		正規職員 (千円)	75	75	75	75		
			その他 (千円)					
			人役数 (人)	0.01	0.01	0.01	0.01	
		正規職員 (人)	0.01	0.01	0.01	0.01		
		その他 (人)						
総コスト=①+② (千円)		2,387	1,075	1,075	975			
市民1人当たりコスト (円)	7	3	3		総コスト/年度末人口			
年度末住民基本台帳人数 (人)	341,544	340,695	339,714					

## 5 成果指標で表せない事業成果・市民満足度・その他課題点等

この事業は、高知県の生んだ生活綴方の始祖といわれる小砂丘忠義の業績を受け継ぎ、高知県の国語教育の振興を担って、高知市民図書館の出版の中の1つとして、昭和50年から続いているものである。子どもの読書離れやゲーム機器の普及など、子どもの豊かな感性を育てることが難しくなっている今日、作文教育の指導は、社会教育機関である図書館としては、その使命の1つと考え、続けていかなければならないと考える。作文作品集としては県内唯一のものであり、子どもの保護者からは喜ばれ、全国的にも質の高さが評価されているものである。

## 6 1次評価（所属長評価）

評価日（平成 22 年 9 月 5 日）

評価項目		評価基準	1次	平均 点数	評価内容の説明
事業実施の必要性	① 事業の実施が市の総合計画・実施計画・市長マニフェスト等の目標達成に結びつくか、又は、事業の根拠等に結びつくか	A (5) 結びつく	A	5.0	子どもの豊かな感性を育てるための、作文教育を振興するためのこの出版事業は、市の総合計画や市長マニフェスト、事業根拠等に結びつき、また、子をもつ親の気持ちから子どもの作文が本に載れば皆購入してくれており、近年は完売しているため、市民ニーズは大いにあるといえる。
		B (3) 一部結びつく			
		C (1) あまり結びつかない			
		D (0) 結びつかない			
② 事業の実施に対する市民のニーズ（需要量）の傾向はどうか	A (5) 非常に多い、急増している	A			
	B (3) 横ばいである				
	C (1) 少ない、減少している				
	D (0) ほとんどない				
事業内容の有効性	③ 事業の成果指標の達成状況は順調か	A (5) 十分に達成している	A	5.0	事業委託している「財団法人 小砂丘賞委員会」の先生方は、毎年アイデアを出してどのような装丁にするか検討しあい、また募集から選考にいたる方法も常に検証しながら、子どもたちの生活綴方に込められる情操教育の振興に情熱をそそいでおり、35年間続いていることに敬意を表すばかりである。
		B (3) 概ね達成している			
		C (1) あまり順調ではない			
		D (0) 十分な成果を望めない			
④ 事業成果の向上のための手法・活動内容の妥当性	A (5) 妥当である	A			
	B (3) 概ね妥当である				
	C (1) 検討の余地がある				
	D (0) 見直しが必要である				
事業実施の効率性	⑤ 事業の実施にかかる民間活力利用の可能性	A (5) 実施済・できない	A	5.0	前回の事務事業の見直しで、長く続けてきた市民図書館の学術出版事業は廃止ということで、1名の出版専属の委託者分を打ち切り、但し、子ども小砂丘賞作品集の出版だけは続けるべきとの判断で、適当な団体に出版委託をする形で、現在の状況になっている。22年度は委託費をさらに縮小しているが、これ以上のコスト削減はできない状況である。
		B (3) 行政主体が望ましい			
		C (1) 検討の余地はある			
		D (0) 十分可能である			
⑥ 類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性	A (5) 現状が望ましい・できない	A			
	B (3) 概ね効率的にできている				
	C (1) 検討の余地がある				
	D (0) 十分可能である				
事業実施の公平性	⑦ 事業の受益者が特定の個人（団体）等に偏りがなく公平性が保たれているか	A (5) 極めて公平性が高い	A	5.0	県内小・中学生を対象に毎年生活綴方の作文応募のPRをし、その中から小砂丘賞委員会の先生方が公平に選考し、毎年新たな各学年1名の最優秀と数名の優秀が決まり、製本化され、1冊千円で一般に販売される。保護者等により買われ、市は出版委託料を90万円出し、出版物歳入として50万円が上がるしくみである。以上から、公平性も高く、適正な負担割合と考える。
		B (3) 概ね保たれている			
		C (1) 偏っている			
		D (0) 公平性を欠いている			
⑧ 事業実施の財源として、受益者負担割合（一般財源負担割合）は妥当か。補助金等交付事業の場合、対象経費は妥当か。	A (5) 適正な負担割合である	A			
	B (3) 概ね適正な負担割合である				
	C (1) 検討の余地がある				
	D (0) 検討すべきである				
総合点	20.0	総合評価	○ A 事業継続 (総合点が16点以上で、各項目の平均点数がいずれも2点を超える場合)		
			B 経費削減に努め事業継続 (総合点が12点以上16点未満で、各項目の平均点数がいずれも2点を超える場合)		
			C 事業縮小・再構築の検討 (総合点が4点以上12点未満 又は 各項目の平均点数のいずれかで2点以下がある場合)		
			D 事業廃止・凍結の検討 (総合点が4点未満 又は 各項目の平均点数のいずれかで1点以下がある場合)		

## 7 2次評価（部局長評価）

評価日（平成 22 年 9 月 24 日）

総合評価	評価理由・今後の方向性等
○ A 事業継続	1次評価のとおり事業継続
B 経費削減に努め事業継続	
C 事業縮小・再構築の検討	
D 事業廃止・凍結の検討	

## 8 特記事項

--